



8月20日未明、広島市北部を中心に起きた豪雨災害で、被害が大きかった八木地区。多くの土砂が流れ込み、道には川のように水が溢れている（左：8月21日撮影、上：8月20日撮影）。



# 命を守る備え ～自主防災組織～

## 広島市北部を中心に発生した豪雨災害における被害の状況

広島市	
死亡	74名
重軽傷	44名
全壊・半壊・一部損壊	430棟
床上・床下浸水	4091棟
安芸高田市	
床上・床下浸水	25棟

### 災害は突然起きる

「長年、ここに住んでいるが、こんなことはじめて。今まで経験したことない」多くの被災者はこう話されます。多くの災害が、突然自分の身の回りで起きたことがわかります。特に近年では、局地的に大雨が降る傾向があり、短時間で災害が起きるケースが増えています。

「もしかして危ないかもしれない」と感じたときに、どう行動すればいいのか。日頃から準備しておくことは重要です。今回は、この命を守るための備えを紹介します。

### 地域のみならず災害に備える

広島市北部を中心に起きた豪雨災害と、過去に安芸高田市で起きた災害のデータがあります。広島市では土砂災害などにより甚大な被害があり、安芸高田市でも大きな被害

## 過去に安芸高田市で発生した災害

平成18年9.16～18大雨	
軽傷	4名
全壊・半壊・一部損壊	16棟
床上・床下浸水	338棟
平成22年9.11～15大雨	
軽傷	1名
床上・床下浸水	80棟

害がありました。このほかに、もう少しで災害につながっていたというケースもたくさんあったと考えられます。

人々は、災害に直面しそうな時どうなるのでしょうか？多くの方は恐怖の中、戸惑い、どうしたらいいのか分からなくなります。ひとりで災害に備えるよりも、地域のみならず災害に備える方が、安心です。地域の方で命を守る取り組み、それが自主防災組織です。

安芸高田市では、80の自主防災組織があり、90%以上の世帯がこの組織に加盟しています。色々な災害に備えて、一人ひとりがどのように行動すれば命を守ることができるのか、考えながら自主防災組織で訓練を続けていくことが重要です。

今回は2つの組織の取り組みを紹介いたします。

# 太郎丸自主防災会

吉田町の中心部に位置し、多治比川に面して住宅が立ち並ぶ太郎丸地域。太郎丸自治会では、平成20年に太郎丸自主防災会を立ち上げられました。

「立ち上げたときは、スコップや家具転倒防止伸縮棒などを、市や消防の職員さんのアドバイスを受けて整備しました。その後、草刈機や土のう袋、救急箱、自家発電機などの防災器具を、地域の皆さんの意見を聞きながら、徐々に集めていきました」

と語るのは太郎丸自治会の会長であり、自主防災会の会長でもある吉野才智さん（85）。器具の点検は年に2回で、太郎丸地域の地区別に分かれている6つの班の班長や若者を中心とした委員（役員）約30名で行われています。

太郎丸自主防災会では、避難訓練や防災講習を受ける自主防災会を年に1回開き、市の危機管理課や消防署の職員から指導を受けているそうです。

「自主防災会では土のう積み、心肺蘇生、初期消火など、災害が起きたときに応急に対応できる訓練を行います。一度やっても心肺蘇生のやり方や消火器の使い方を忘れてしまうので、繰り返しやって、身に付けることが大切です」

と吉野さんは言います。訓練を継続していくことの重要性も感じておられます。

「実際に災害があったときに、何もできなかったら意味がありません。まずは、訓練をして心肺蘇生や初期消火などの技術を自分のものにしてほしいです。専門的な

ことはできなくても、私たちができることを確実にやるようにすることが大事です。それが自分たちの命を守ることにつながると思います」

万が一の事態に備えて、自分たちができることを行えるよう、継続して訓練を行うこと。それは、自主防災活動の中で、最も重要なことのひとつです。また、吉野さんは「地域の皆さんが、地域の防災活動について、『もつとこうしたらいいのではないか』と、少しずつ知恵を出してくれています」と言います。地域の皆さんが一体となって、災害に強い地域づくりを実践されています。



太郎丸自主防災会 会長  
吉野才智さん



3



2



1



4

1. 10月5日（日）に太郎丸集会所で開催された防災講演会。市役所総務部危機管理課の職員から太郎丸地域のハザードマップの説明や、災害が起きたときにどう避難したらよいかの説明を受けた。2. 説明を真剣に聞く太郎丸地域の皆さん。3. 防災器具庫に整備されている器具の一部。4. 昨年の自主防災会で、初期消火訓練を行っている様子。